

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区新橋6丁目4-3 ル・グラシエルビル7号館2階
園名	こころ新橋保育園

1 活動のテーマ

<テーマ>

色（感触）

<テーマの設定理由>

身近なモノへ親しみから意欲的に名前を覚えたり話している姿がある。同じ玩具でも好きな色を選んだり色によって区別して遊んだりする姿が見え始め、感触を通した色遊びを行うことで色彩への気付きを深められると感じ、今回の研究テーマにした。

2 活動スケジュール

7/10(木) カラーポリ袋
8/14(木) 色水遊び
9/11(木) ボディーペインティング
10/16(木) にじみ絵
11/13(木) マスキングテープの巣
12/11(木) ステンドグラス

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

カラーポリ袋、クリア素材の水槽、透明カップ、食紅、ゆび絵の具、絵の具、模造紙、筆、障子紙、マスキングテープ、紙テープ、すずらんテープ、折紙、カラーセロハン

4 探究活動の実践

<活動の内容>

カラーポリ袋

様々な色のカラーポリ袋で大きな風船を作成。保育室内で持ち上げる、飛ばす、乗るなどの粗大運動を掛け合わせながら色彩豊かな遊びを展開した。

色水遊び

中身がよく見えるクリア素材の水槽、カップを用意した。食紅で水に色をつけ、色の変化や混色の様子を各々が思いのままに観察できるようにした。

ボディペインティング

ゆび絵の具を用意し、模造紙や段ボールに描いた。床だけでなく、壁にも描けるように設定した。

にじみ絵

障子紙と絵の具、カラーマーカー、筆、霧吹きを用意した。障子紙を折りたたんでから色水に浸す、マーカーペンで描いたものに水をかけるといった技法で行った。

マスキングテープの巣

マスキングテープを部屋の端から端に貼り付け、紙テープ、すずらんテープ、折紙など軽くてくつきやすい素材を思い思いに貼り付けていった。

ステンドグラス

蝶々の形をした台紙にカラーセロハンを貼り、ステンドグラスを作成した。室内では光にかざす、覗き込むなどして遊び、その後戸外では色彩豊かな影を作って遊んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

カラーポリ袋

「これはあか！こっちはあお！」と色の名前を保育者に伝える、「きいろのおばけ～！」と最近読んだ絵本と紐づけて見立てるなどの姿があった。ポリ袋を掴んで大きく動かし音や風を出したり、布団に見立てて休憩したりなど、保育者に援助してもらいながら素材の特性も楽しんだ。

色水遊び

色が混ざり合う様子を熱心に観察、実践していた。水が手に触れると「つめたい！」と温度を感じながら、「あかとあおをまぜたらなにいろになるかな？」「むらさきじゃない？」などと子ども同士で考え試していき、たくさんの色を作っていた。

できた色水をジュースや果物に例え、見立て遊びにも発展した。

ボディペインティング

初めは不安そうにしていた子どもたちだったが、好きな色を選ぶ、混色の提案をしてもらうなどの援助をもらいながら、全身絵の具まみれになって遊んだ。「あかとあおをまぜたんだ～」「つぎはこっち（きいろ）にしてみよう」と自発的に色を混ぜる、「たこさんのて！」と絵の具に染まった手を身近なものに例えるなどの姿があった。

にじみ絵

障子紙に色が染まる様子を見て「うわ～！すごーい！」と歓声をあげる、保育者の「生きているみたいだね！」の言葉から色を生き物に例えるなどの姿が見られた。

マスキングテープの巣

0歳児は吊るされた紙テープを手取るため立ちあがろうと挑戦していた。細いテープを握る、引っ張るなどの動きを援助した。

1～2歳児は好きな素材をテープにつけ、「なにいろにする？」「折り紙は丸めた方がかわいい！」など友だちと会話を弾ませていた。巣が壊れないようにと力加減に注意しながら取り組んでいた。

スタンドグラス

スタンドグラス越しに見える景色の色が変わることに気付き「そとのいろがかわった～！」と喜ぶ、地面に映る影に色が着いていることを見つけ友だちに教える、どうやったら影ができるか試行錯誤するなどの姿があった。



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近な色に着目できるよう様々な素材を用いて遊びを実践した結果、自分で選ぶ、何色ができるか想像する、知っているものに見立てる、友だちと一緒に考えるなどの姿を引き出すことができた。

その中で、乳児クラスの遊びには保育者が行う援助の大切さを再認識した。例えばにじみ絵遊びにおいて、保育者の「生きているみたいだね」の言葉があった。その後1歳児が色から連想する生き物を次々に発言した。短い一言が想像力を働かせるきっかけになったと気付かされた。

また、一年を通して「色」に関する遊びを展開した中で、想定した遊び方と違ったということもあった。それによって子どもの興味関心が何に向いているのかを知ることができ、次の遊びを計画する手がかりにもなった。

子どもたちが何を楽しんでいるのかを具体的に見る視点を持ち、どのような援助や言葉かけをしていくかを意識することが子ども主体の遊びにつながると学んだ。